

## 1.学習面の準備

### 《算数》

- ①数を正しく数える時は、○でかこうなど、印をつける習慣を身につけておく。
- ②10までの数字を正しく書く。（「5の書き順」「0の読み方」「0の書き方」）
- ③「10ごとにまとめるとよい」→とても大切な考え方
- ④10のまとまりを○で囲えるようにしておく。
- ⑤「前から○番目」「後ろから○人」普段の生活の中で経験をさせる。
- ⑥「いくつといくつ」少ない数から、手で隠して遊ぶ(目に見えない数を考える)
- ⑦たしざん(1)ひきざん(1)指や具体物でおもいきり経験させる。
- ⑧時計は、針の時計を準備して、日頃から慣れさせておく。(何時・何時半・何時何分)
- ⑨パズルや積み木遊びをたくさん体験させる。(三角と三角で□になるなど・・・)
- ⑩文章問題では、指でおさえながら、丁寧に問題を読む習慣をつける。答え方も注意  
(3点セットで間違いは激減)□いくつでしょう。□どちらがどれだけ・・・
- ⑪「長い・短い」「大きい・小さい」「多い・少ない」などの用語になれさせておく。
- ⑫サイコロを使った「双六あそび」やいろいろな「グラフ」に親しませておく。

### 《国語》

- ①じぶんの名前は書けるようにしておきたい
- ②絵本でも図鑑でもよいので本に親しむ習慣を身につけておく（読み聞かせも大切）  
※特に昔話をたくさん読み聞かせさせておいてください。
- ③話集を増やす「しりとり遊び」
- ④ひらがなの書き順(も・よ・む)
- ⑤カタカナの形と書き順(ツとシ・ンとソ・クとワ)
- ⑥正しい言い方①  
「おとうさん」「おとうと」「いもうと」「おねえさん」「こおり」「ぐらうんど」  
「おうさま」「れいぞうこ」「ほうちょう」「おおかみ」「せいかつ」「たいいく」
- ⑦「一～十の読み方」  
□七は、「なな」か「しち」と読む。「ひち」は×  
□十は、「とお」とも読むが、「とう」は×
- ⑧一日(ついたち)の読み方 十日(とおか) 二十日(はつか) 三十日(みそか)
- ⑨はみだしてしまうなら、大きなマスで書かせてみる。
- ⑩鉛筆正しい持ち方は、補助具で解決。(悪い持ち方を習慣化しない。)
- ⑪本の持ち方(イスに座って読むとき・立って読むとき)
- ⑫横書きは数字、縦書きは漢字
- ⑬読点「、」や句点「。」の書く場所は右下。
- ⑭「 」の書く場所や、行の最後に読点「、」がきたときの書き方。

### 《その他学習関係全般》

- ①色のぬりかた(周りをぬってから中をぬるとはみ出ない)
- ②消しゴムの消し方
- ③定規の線の引き方
- ④プリント等もらったら、まずは、日にちと名前の記入
- ⑤教科書や持ち物の準備は、使う順番にカバンに入れる。
- ⑥名前はすべてひらがなで記名。漢字は使わない。(他の子が配るときにも因る)
- ⑦いろいろな虫や生き物、植物、土、どろ、粘土等を触る経験をさせる。
- ⑧なわとび、てつぼう、一輪車、スイミング等様々な運動も経験させる。
- ⑨昔遊びも行います。剣玉、コマ回し、お手玉、竹馬、あや取り等を経験させる。
- ⑩手を叩きながら歌う等、音楽に親しませたい。アニメソングでも OK カラオケも OK
- ⑪えんぴつの持ち方は、矯正補助具を使うと良い。
- ⑫新しい本をもらったら、広げた後、上から押して折り目を付けて閉じにくくする。
- ⑬基本的に机の上で学習する時の文具や本の置き場所を決めておく。

## 2.生活面の準備

- ①まずは、健康。「すっきりウンチの生活習慣」朝起きてからのパターンを同じにする。
  - 夜8時を過ぎたらなにも食べない →
  - 朝ご飯前に10分動く → 胃結腸反射によって排便がスムーズに
  - 朝ご飯は20分かけて食べる →
- ②通学路は入学前に練習して歩く。(2年時以降も変更しないように学校に確認)
- ③トイレへの対応(洋式?和式?)足首までズボンを下げなくてもできるようにしておく。
- ④食事の指導(食べるときの姿勢・箸の使い方・三角食べ・嫌いな食べ物への対応)
- ⑤掃除の指導(ぞうきんのしぼり方、ほし方、ほうきの持ち方、はき方)
- ⑥自分の机の整理整頓(どこに何をおくか決めておく)
- ⑦授業(カバン)の準備の仕方、一時間目から準に準備する。
- ⑧提出物の出し方、学校のかごの並んでいる順番に一つずつ入れていく。ない場合は、「ありません」や「わすれました」を言えるようにしておく。
  - 学校から聞けるように準備しておく。→家でも練習 ※専用の箱が効果的
- ⑨靴や服、靴下等は自分で脱着ができるものにしておく。(特に靴選びは大切)
  - ※かかとをそろえる。
- ⑩ハンカチやマスクは、予備を必ずランドセルの中に入れておくようにする。
  - 担任にもしらせておく
- ⑪あいさつの仕方・(いろいろな挨拶がある 大きい声のあいさつだけがよいわけではない)
- ⑫朝は自分で起きる。
- ⑬歯磨き
- ⑭正しい手の洗い方
- ⑮ボタンやピン(場合によっては、紐の結び方)
- ⑯できることからお手伝い。(家庭内での位置づけ)
- ⑰仲良しの友達をつくり、学校の情報が入るようにしておく。
  - (ホームパーティーの開催を通して、積極的に友達作りを行う)
- ⑱水筒は、コップ式の方がよい。
- ⑲手紙のたたみ方、角と角をあわせて綺麗に折る練習(折り紙でできる。)
- ⑳当たり前のマナー(くしゃみは口を押さえる・きたない・ひわいな言葉は使わない等)
- ㉑交通安全(横断歩道の渡り方等)
- ㉒お金を払って物を買うこと。
- ㉓呼ばれたら、しっかりと「はい」の返事ができる。
- ㉔正しい手の洗い方(できたら体の洗い方へできることを発展させていく。)
- ㉕正しい歯磨きの仕方(学校でも歯磨きをするところが増えています。)
- ㉖うがいができない子が増えています。ご家庭で練習をしておいてください。
- ㉗カバンにキーホルダー等はつけない。お守りもカバンの中にした方がよい。
- ㉘ご褒美に安易にお金や物を渡さない。
  - 《よい例》頑張ったらあなたの好きなメニューの夕ご飯を手作りで作ってあげるよ。
- ㉙親の姿を子どもたちは見ている。まずは、親が祖父母にしているところを見せるとよい。
- ㉚百匹の魚を与えるのではなく、一匹の魚の釣り方を教えるつもりで、学び方を教える。
- ㉛ほめ方は、「位置づけ」「価値付け」「方向づけ」
  - ※特に位置づけが何よりも大切(家でのお手伝いをできるようにしておきたい。)
- ㉜ただできたからよいのではない。「般化」→どこでもできるようにすることが大切

## 3.学校との連携

- ①入学式の練習(お願いすれば事前にできます。)
- ②入学式後の早期の個人懇談(学校によっては入学式前・に実現することも・・・)
- ③文援計画・今後の進路(通常に戻すか。中学校卒業後は、就労は・・・)
- ④どのような力を身につけさせるのか。(S-M 社会生活能力検査の130項目の習得)
- ⑤学校への要望をどうするか。(施設関係の要望は早急に行うこと)
- ⑥シールを貼ってほめる経験をしておく。
- ⑦頑張る内容をしぼって、学校と一緒に取り組む。
- ⑧絵カードなどを使う場合も学校と同じ物を使う。
- ⑨連絡帳だけではなく、携帯等で緊急の連絡がとれるかどうか確認しておく。
- ⑩小中との連携、今後の進路について事前に考えておく。
- ⑪クラス編成等の要望もある程度可能(そのコツは・・・)
- ⑫机の場所は非常に重要。事前のお願いで場所の指定が可能。

## 4.病院や福祉施設等、その他各種機関との連携

- ①心理検査・発達検査を受診し、お子さんの実態を科学的かつ正確に担保する。
- ②お子さんを預ける場合、学童保育にするのか、放課後等デイサービスを利用するか。
- ③お子さんの教育・進路相談について専門機関と継続的につなげていく場の確保。
  - (医療機関との連携 児童発達支援センター等と小学校のつなぎ)
- ④障害者手帳をもらうかどうか。・・・将来を考えて決断は早めに。
- ⑤小学校で使える物は、できるだけ園のうちから使用させて慣れさせておく。
- ⑥園で信頼できる先生と出会った場合は、個人的なお付き合いを続けるとよい。